

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

挑戦する心を持ち、さらなる進化を目指す

特集

アクモスグループ 中期経営計画Ⅲ (2022/07-2025/06) 進捗

アクモスジャンクション

- 働く環境の整備「アクモス株式会社およびグループ2社 本社移転」
- 人を育てる「アクモス株式会社 新入社員教育」

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2023

Vol.20

▶ 社是

挑戦する心

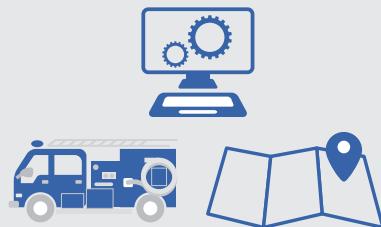
挑戦を心の糧に、失敗を技術の種に

▶ 企業理念

アクモスグループは、社会の進歩・発展に貢献するため、仕事を通して心の豊かさと技術の向上を追求し、お客さまに感動していただけるプロフェッショナルなサービスを提供して、持続的な成長を実現します。

当社グループは、アクモス株式会社および子会社4社で構成され、各社の連携ならびにパートナー企業との協力により、お客さまのニーズに応えるITソリューション、ITインフラ、ITサービスを提供しております。持続的な成長の実現を目指して、輝くICTサービスで社会の向上に貢献すべく活動してまいります。

ITソリューション



SI・ソフトウェア開発
消防防災ソリューション
GISソリューション

ITインフラ



IT基盤・ネットワーク構築
クラウド関連サービス

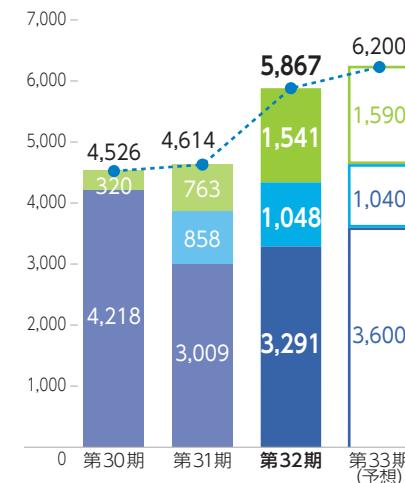
ITサービス



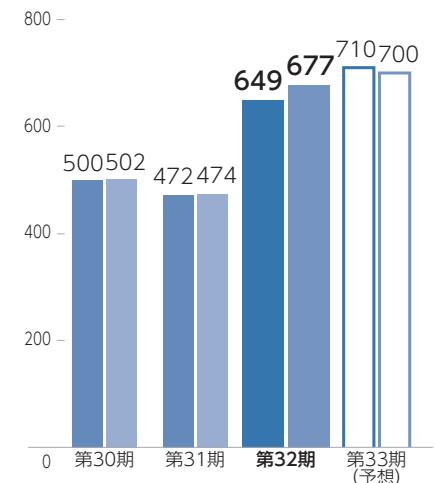
第三者保守サービス
病院情報システム維持管理
サーベイ・アンケート
ビジネスプロセスアウトソーシング (BPO)

※2023年6月期より、事業の報告セグメントを「ITソリューション」、「ITサービス」の2つから、「ITソリューション」、「ITインフラ」、「ITサービス」の3つへと変更いたしました。それに伴い、従来「ITソリューション」に区分しておりました病院情報システム維持管理を「ITサービス」に変更しております。

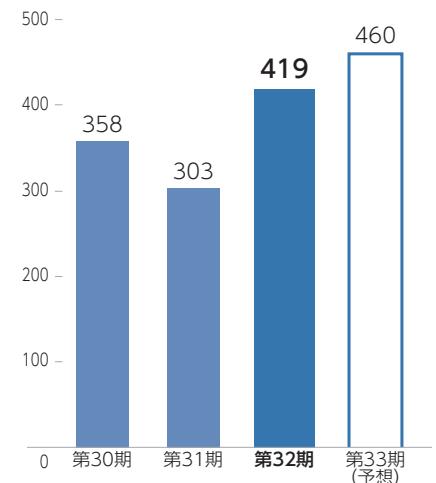
■ 売上高 (単位:百万円)
■ ITソリューション事業 ■ ITインフラ事業
■ ITサービス事業 ●●● 連結



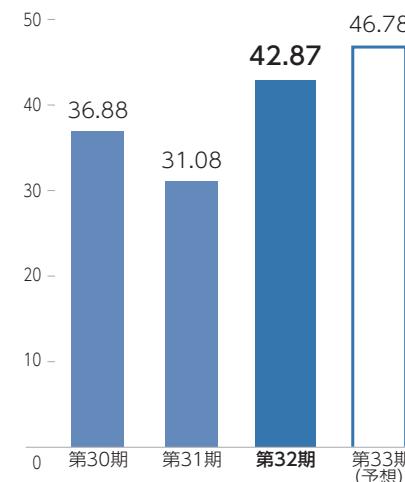
■ 営業利益 ■ 経常利益 (単位:百万円)



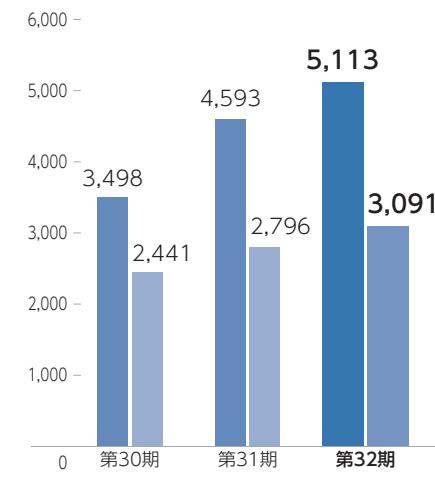
■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



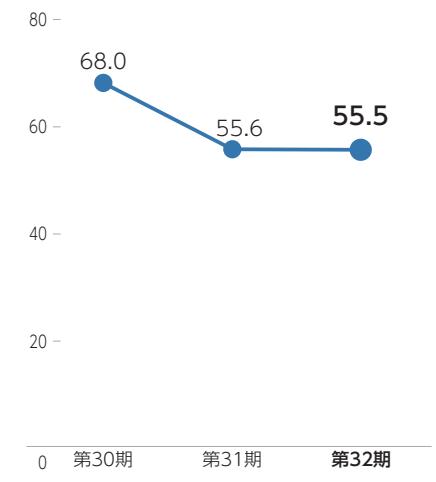
■ 1株当たり当期純利益 (単位:円)



■ 総資産 ■ 純資産 (単位:百万円)



● 自己資本比率 (単位:%)



※第31期の各セグメントの売上高は、変更後のセグメントに組み替えて算出したものです。

※自己資本比率=自己資本(純資産-新株予約権-非支配株主持分)/総資産



代表取締役会長 兼 CEO
飯島 秀幸

代表取締役社長 兼 COO
清川 明宏

挑戦する心を持ち、さらなる進化を目指す

第32期のご報告

全ての事業セグメントで増収増益を達成

第32期は、期首にアクモスグループ理念体系を一新して「挑戦する心」を社是として制定、中期経営計画Ⅲ(2022/07~2025/06) (以下、「中期経営計画Ⅲ」という。)を公表しました。また、前期末に行ったM&A(※1)によりITサービス事業に第三者保守サービスが加わり、心機一転のスタートとなりました。

事業の概況としては、まず、ITソリューション事業は、公共系の消防通信指令システムの初期整備やGISを活用した官公庁の調査請負案件に取り組んだほか、民間企業からの開発案件も堅調でありました。

ITインフラ事業では、地方自治体のテレワーク環境整備を含むネットワーク構築案件が完了し、クラウド化及びセキュリティ強化の需要をとらえたことにより、構築・運用案件を中心とした売上も堅調に推移しました。標的型攻撃メー

ル訓練ソリューション等のクラウド関連サービスについては、販売パートナー経由での販促活動に注力し、売上が増加しております。

ITサービス事業は、第三者保守サービスでシステム販売・修理が好調で業績が順調に推移しました。病院情報システム維持管理では、人員の効率的な運用を図るため契約病院の見直しを行うとともに契約の新規受注や更新に注力するなど、付加価値の向上に取り組みました。サーベイ・アンケート、BPOは、WEBを活用した販促活動や販売パートナーとの連携を強化し、業績は回復基調となっております。

事業全体の取り組みとしては、グループ会社間での連携を強化しており、消防・防災分野では、GISソリューションと共同で、消防通信指令システム案件対応や新たなソリューションの検討を進めております。また、ネットワーク構築分野では、第三者保守のリファービッシュ(再生)機器とITインフラのサービスを組み合わせ、お客さまへの最適なリプレースの提案を推進しております。

当社単体では、新入社員研修を従来の3ヶ月から最長で1年3ヶ月に延長し、基礎研修後に実践的なプロジェクトとして社内システムの開発・導入を行うなど、人財育成に注力しております。また、働く環境の充実を図り、グループ本社としての機能を高めるため、2023年4月に

本社事務所を東京都港区虎ノ門に移転いたしました。(※2)

以上の結果、全ての事業セグメントにおいて前期比で増収増益となり、第32期の連結業績は、売上高5,867百万円(前期比27.1%増)、営業利益は649百万円(前期比37.4%増)、経常利益は677百万円(前期比42.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は419百万円(前期比38.2%増)となりました。これにより、期末配当は当初計画していた1株当たり12円を上回る、1株当たり13円とさせていただきました。経営指標として掲げている営業利益率は11.1%(前期10.2%)、株主資本利益率(ROE)は15.6%(前期12.3%)となりました。

	第31期 2022年6月期	第32期 2023年6月期	増減率
売上高	4,614百万円	5,867百万円	27.1%
ITソリューション	3,009百万円	3,291百万円	9.4%
ITインフラ	858百万円	1,048百万円	22.1%
ITサービス	763百万円	1,541百万円	101.8%
営業利益	472百万円	649百万円	37.4%
ITソリューション	285百万円	288百万円	1.0%
ITインフラ	195百万円	257百万円	31.8%
ITサービス	71百万円	146百万円	103.9%

※1：2022年6月30日付で、株式会社フィールドワンの株式を取得し、連結子会社化しました。

※2：人財育成については12ページ、本社移転については11ページで詳しくご説明しています。

中期経営計画Ⅲの進捗

挑戦する心を持って、進化にむけた取り組みを推進

当社では、2022年8月に発表した中期経営計画Ⅲにおいて「挑戦し続けるグッドカンパニー」をグループ共通のビジョンとして掲げ、外部環境に左右されない成長企業への進化を目指しております。

中期経営計画Ⅲの初年度となった第32期は、成長領域を中心に事業投資として、前述した新人育成をはじめとした人財投資を進めたほか、茨城開発センター（茨城県那珂郡東海村）の敷地内に消防・防災システムの開発拠点として新棟建設を計画（完成は2024年春を予定）するなど設備投資にも着手いたしました。また、消防・防災分野のソリューション検討会や、行政分野におけるDX化ニーズに対応したクラウドサービス創出に取り組むなど、収益の柱となる事業の創出にも挑戦しております。

事業拡大にむけた施策を進める一方で、SI・ソフトウェア開発等のコア領域では効率化を推進してバリューアップを図るなど、安定した収益基盤の確保にも注力しております。今後も挑戦する心を持って、中期経営計画Ⅲの取り組みを進めてまいります。

中期経営計画Ⅲの進捗については、7、8ページで詳しくご説明しています。

第33期の展望

利益目標は当初計画値の1年前倒しを目指す

今後の見通しについては、ウィズコロナにより社会活動が正常化していく一方で、ウクライナ情勢による世界経済へのリスクもあり、先行き不透明な状況であるため、当社グループの事業環境への影響を注視しながら事業を展開してまいります。また、人財の採用環境は売り手市場が続いており、必要な採用ができなければ将来の業績に影響を与える可能性があることから、人財採用をグループの重要課題として取り組んでまいります。

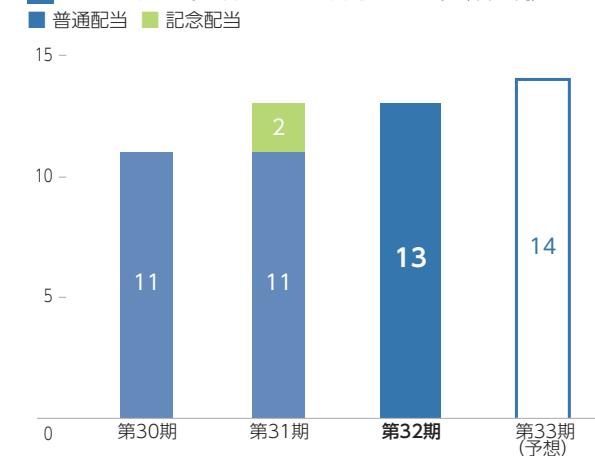
第33期の連結業績は、売上高6,200百万円（前期比5.7%増）、利益項目については中期経営計画Ⅲの3年目の当初計画値を1年前倒しとした、営業利益710百万円（前期比9.3%増）、経常利益700百万円（前期比3.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益460百万円（前期比9.7%増）を予想しております。経営指標については、営業利益率11.5%、株主資本利益率（ROE）15.5%を目指して進んでまいります。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では、株主のみなさまに対する安定的な配当の実現を中長期的な重点課題として位置付けており、配当方針は連結の親会社株主に帰属する当期純利益の30%以上を目標としております。この配当方針に基づき、第32期の期末配当は1株当たり13円とさせていただきました。第33期の期末配当は、1株当たり14円を予定しております。当社はこれからも、挑戦し続けるグッドカンパニーとして、企業価値の向上と持続的な成長を図り、さらなる進化を目指してまいります。株主のみなさまには、引き続きご理解とご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。

■ 配当の状況（1株当たり年間配当金）（単位：円）



取締役副社長 兼 CTO 就任のご挨拶



2022年9月27日付で、取締役副社長そしてCTO（最高技術責任者）に就任いたしました、深作耕一でございます。

1983年に入社して以来、主に技術部門に従事し、2008年に執行役員に就任、2015年からは取締役として当社の方向性を決定する重要な意思決定に携わってまいりました。

これからも当社の技術分野を牽引し、プロフェッショナルなサービスを提供して、進化のための挑戦を続けていきます。今後とも、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

初年度となった第32期は、3～6ページのトップメッセージでご説明したとおり、全てのセグメントにおいて前期比で増収増益となりました。

2年度目となる第33期は、第32期比で売上高5.7%増、営業利益9.3%増を見込み、各利益項目については中期経営計画Ⅲ 3年度目の当初計画を1年前倒して目標達成に取り組んでまいります。

挑戦し続けるグッドカンパニー

基本方針

Good Business

成長領域の軸をセキュリティからクラウドに拡大し、お客様のニーズに対応する最適なICTサービスを提供するM&A投資を促進

Good Members

社員の挑戦する心を育み、人材成長の仕組みを構築して、会社と社員が挑戦し続けるための基盤を確立する

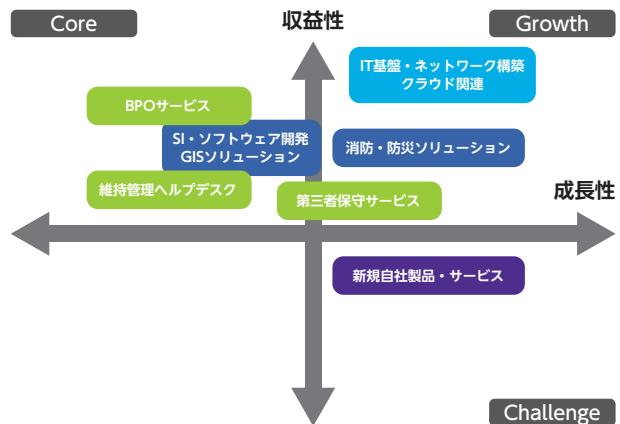
Good Value

基準年度である2022年6月期との比較で、中期経営計画の3期の各事業年度の売上高、営業利益で増収、増益を目指す

経営目標 KPI

	第32期 2023年6月期		第33期 2024年6月期	
	中期経営計画Ⅲ 当初計画	実績	中期経営計画Ⅲ 当初計画	予想
売上高	5,700百万円	5,867百万円	6,000百万円	6,200百万円
営業利益	570百万円	649百万円	640百万円	710百万円
経常利益	560百万円	677百万円	630百万円	700百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	365百万円	419百万円	410百万円	460百万円
株主資本利益率 (ROE)	17%	15.6%	16%	15.5%
営業利益率	10%	11.1%	11%	11.5%

事業戦略ポートフォリオイメージ



第33期 (2024年6月期) 計画 トピックス

事業投資推進

人財及び設備への投資を促進し、Growth、Core領域の業容拡大を目指す
首都圏地区でのM&Aに取り組み、事業基盤の強化を図る

人財投資

- ・採用数増に取り組み、常時雇用者数500人体制を目指す
- ・Growth領域への人員転換や新規採用社員の育成のための先行投資を促進
- ・全グループ会社において営業利益目標超過額の一定割合を社員に還元

設備投資

- ・消防・防災ソリューション事業の受注拡大に伴い、新棟の建設を計画

M&A

- ・ITソリューション及びITインフラ分野のM&Aによる首都圏事業拡大

DX・GX・クラウド化ニーズへの対応

行政の業務系システムのクラウドサービス導入、デジタル化支援を強化
森林ICTシステムで森林資源情報整備を支援

行政DX

オンプレミスからクラウドへの移行を推進

- ・クラウド化した業務系システムをモデルプロジェクトとし、拡販推進
- ・ソリューション×インフラ×セキュリティを最適化し業務DX推進

GX・森林資源情報

森林ICTシステム導入2～4市町村で計画

- ・地域の森林整備や林業振興の基礎となる各種森林情報をGIS上で一元管理



グループ事業シナジー

グループ会社間で連携が進む事業シナジー

消防・防災ソリューション

ASロカス (GIS) × アクモス (消防)

- ・消防通信指令システムを2消防本部に納入予定
- ・消防防災ソリューション検討会を実施

リファービッシュ機器活用リプレイス

フィールドワン (第三者保守) × アクモス (ITインフラ)

- ・サービスを組み合わせて最適なリプレイスを実現



■ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第31期 2022年6月30日	第32期 2023年6月30日
資産の部		
流動資産	4,060,056	4,446,541
固定資産	533,668	667,056
有形固定資産	191,674	248,054
無形固定資産	58,481	79,352
投資その他の資産	283,512	339,649
資産合計	4,593,725	5,113,598
負債の部		
流動負債	1,318,490	1,609,792
固定負債	478,271	412,381
負債合計	1,796,762	2,022,174
純資産の部		
株主資本	2,554,899	2,836,728
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,208,265	1,196,258
利益剰余金	699,211	991,586
自己株式	△45,827	△44,367
その他の包括利益累計額	△251	△56
非支配株主持分	242,314	254,752
純資産合計	2,796,963	3,091,423
負債純資産合計	4,593,725	5,113,598

Point 1 資産の部

資産は、前期末に比べ519百万円増加しています。

流動資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加296百万円、受取手形及び売掛金の増加47百万円、仕掛品の増加50百万円があったことによるものです。

固定資産の増加の主な理由は、有形固定資産の増加56百万円、保証金及び敷金の増加56百万円、繰延税金資産の増加33百万円のうち、保険積立金の減少35百万円があったことによるものです。

Point 2 負債の部

負債は、前期末に比べ225百万円増加しています。

流動負債の増加の主な理由は、買掛金の増加16百万円、未払金の増加86百万円、未払費用の増加56百万円、アフターコスト引当金の増加26百万円、前受金の増加70百万円、未払法人税等の増加31百万円があったことによるものです。

固定負債の増加の主な理由は、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の減少62百万円があったことによるものです。

Point 3 純資産の部

純資産は、前期末に比べ294百万円増加しています。

純資産の増加の主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益419百万円、配当金の支払い127百万円によるものです。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第31期 (自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日)	第32期 (自 2022年7月 1日 至 2023年6月30日)
売上高	4,614,931	5,867,497
売上原価	2,857,532	3,603,006
売上総利益	1,757,398	2,264,491
販売費及び一般管理費	1,284,583	1,614,656
営業利益	472,815	649,834
営業外収益	3,386	36,511
営業外費用	1,775	8,660
経常利益	474,425	677,685
特別利益	45,089	848
特別損失	10,942	29,164
税金等調整前当期純利益	508,572	649,369
法人税等	201,548	209,678
当期純利益	307,024	439,690
非支配株主に帰属する当期純利益	3,481	20,227
親会社株主に帰属する当期純利益	303,542	419,463

Point 連結損益計算書

アクモス及び連結子会社2社の本社移転に関する費用が発生したものの、全ての事業セグメントにおいて前期比で増収増益となったこと、当期よりITサービス事業に加わった第三者保守サービスが寄与したこと等により、売上高は5,867百万円（前期比27.1%増）、営業利益は649百万円（前期比37.4%増）、経常利益は677百万円（前期比42.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は419百万円（前期比38.2%増）となりました。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)

科 目	第31期 (自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日)	第32期 (自 2022年7月 1日 至 2023年6月30日)
当期純利益	307,024	439,690
その他の包括利益	△ 28,383	194
包括利益	278,641	439,884
(内訳)親会社株主に係る包括利益	275,159	419,657
非支配株主に係る包括利益	3,481	20,227

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第31期 (自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日)	第32期 (自 2022年7月 1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	358,891	626,699
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 341,494	△ 118,312
財務活動によるキャッシュ・フロー	402,175	△ 212,177
現金及び現金同等物の増減額	419,572	296,210
現金及び現金同等物の期首残高	2,300,999	2,720,572
現金及び現金同等物の期末残高	2,720,572	3,016,782

Point 連結キャッシュ・フロー計算書

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
法人税等の支払額220百万円、棚卸資産の増加55百万円、売上債権の増加118百万円、未払費用等その他流動負債の増加233百万円があった一方、税金等調整前当期純利益649百万円、非資金項目である減価償却費49百万円があったことによるものです。
(投資活動によるキャッシュ・フロー)
保険の解約による収入71百万円、有形固定資産の取得による支出82百万円、無形固定資産の取得による支出49百万円、保証金及び敷金の差入による支出58百万円によるものです。
(財務活動によるキャッシュ・フロー)
長期借入金の返済による支出62百万円、子会社による自己株式の取得19百万円、配当金の支払額126百万円があったことによるものです。

働く環境の整備 アクモス株式会社およびグループ2社 本社移転

2023年春、本社事務所を構えていた神田小川町ビルの賃貸借契約満了に伴い、アクモス株式会社とアクモスメディカルズ株式会社は東急虎ノ門ビル（港区虎ノ門）に、株式会社ジイズスタッフは紀繁ビル（千代田区岩本町）に、本社を移転しました。

テレワークやリモート対応など、コロナ禍以降に定着した多様な働き方に対応するため、アクモス株式会社では、営業・技術部門の執務スペースに固定席を設けず自由な席で仕事ができるフリーアドレスを採用し、Web会議用ブースを2箇所設置しました。アクモスメディカルズ株式会社は社内にミーティングスペースを設け、株式会社ジイズスタッフは従来よりも広いオフィスでデザイン・配色を統一するなど、社員のコミュニケーション促進にも注力しています。

また、東急虎ノ門ビルでは、グループの共有スペースである会議室の一部やオープンスペースのソファの座面下に災害備蓄品を収納し、いざという時に使いやすいよう工夫するなど、防災対策にも取り組みました。

アクモスグループは、働く環境の充実を図ることで一人一人が挑戦する心を育み、挑戦し続けるグッドカンパニーとなるべく邁進していきます。

東急虎ノ門ビル（アクモス株式会社、アクモスメディカルズ株式会社）



グループ共同エントランス



共有スペース



アクモス株式会社 営業・技術部門の執務スペース



アクモス株式会社 新入社員教育

アクモス株式会社では、2022年4月より、エンジニア職の新入社員研修を従来の3ヶ月から最大1年3ヶ月に延長し、心理的安全性の高い環境で、技術力とともに人間力を高める「自律した社員」の育成を進めています。

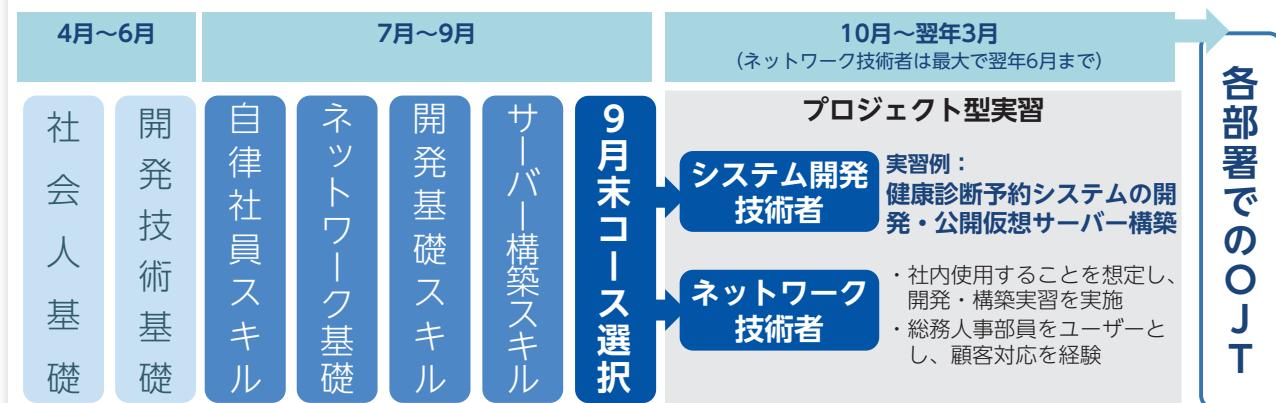
2022年度は、6ヶ月にわたる基礎研修後、プロジェクト型の実習として「健康診断予約システム」の開発導入を行いました。このシステムは、実際に2023年4月からの健康診断の予約に全社で使用され、バックオフィススタッフの負担軽減に貢献しています。

アクモスグループはこれからも、人財の成長が事業の成長を生むサイクルの実現を目指し、人を育てる取り組みを進めていきます。



2023年4月入社新人の技術基礎研修の成果発表会の様子

アクモス株式会社 新入社員研修 実施例

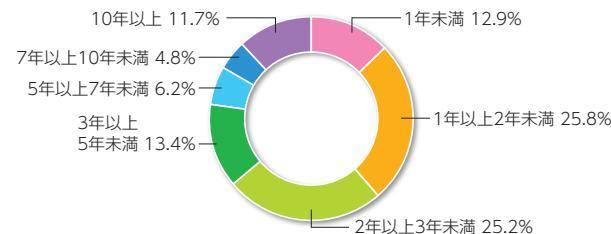


株主アンケート結果報告

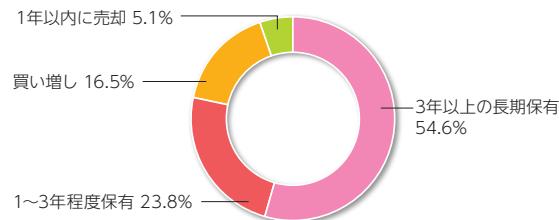
2022年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

アンケート実施概要
 実施期間：2022年9月27日～2022年10月31日
 調査対象：2022年6月30日現在、100株（1単元）
 以上を保有する株主さま 6,778名
 回答者数：370名（回答率5.5%）

Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください（複数回答可）



株主さまからのご意見

- ・ 厳しい世の中ですが、成長性を評価しているので、頑張ってください。(30代女性)
- ・ 成長し、より多くの配当が出せるようにしっかりと先を見据えた経営をしてほしい。(50代男性)
- ・ 社員を大切に、働きやすい環境を作ってあげてください。会社の成長を期待しております。(20代男性)

社会貢献活動報告

アクモス株式会社の茨城開発センターでは、日本赤十字社・茨城県赤十字血液センターの献血車による献血活動に毎年参加しています。この献血活動への参加は30年以上続けており、2018年には「多年にわたり献血事業に積極的に協力し、献血の推進に寄与した」として、茨城県知事から表彰を受けました。身近な社会貢献活動として、これからも続けていく予定です。



2023年7月に実施した献血活動の様子

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況 (2023年6月30日現在)

商号 アクモス株式会社
 設立 1991年8月23日
 資本金 6億9,325万円
 社員数 連結411名、単体276名
 主な事業
 ・ITソリューション
 SI・ソフトウェア開発
 消防防災ソリューション
 GISソリューション
 ・ITインフラ
 IT基盤・ネットワーク構築
 クラウド関連サービス
 ・ITサービス
 第三者保守サービス
 病院情報システム維持管理
 サーベイ・アンケート
 ビジネスプロセス アウトソーシング

■ 役員の状況 (2023年9月28日現在)

代表取締役会長 兼 CEO 飯 島 秀 幸
 代表取締役社長 兼 COO 清 川 明 宏
 取締役副社長 兼 CTO 深 作 耕 一
 社外取締役（常勤監査等委員） 西 山 達 男
 社外取締役（監査等委員） 板 垣 雄 士
 社外取締役（監査等委員） 松 尾 恭 志
 社外取締役 小 竹 由 紀
 取締役（監査等委員） 金 子 登 志 雄

※第32回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所

本社 〒105-0001
 東京都港区虎ノ門一丁目21番19号
 東急虎ノ門ビル8F
 TEL：03-5539-8800
 茨城本部 〒310-0015
 茨城県水戸市宮町一丁目2番4号
 マイムビル10F
 TEL：029-291-3410
 茨城開発センター 〒319-1112
 茨城県那珂郡東海村村松2713番地7
 TEL：029-270-5555
 つくばオフィス 〒300-0847
 茨城県土浦市卸町一丁目1番1号
 関鉄つくばビル2F
 TEL：029-834-3391

■ 株式の状況 (2023年6月30日現在)

発行可能株式総数 32,300,000 株
 発行済株式総数 10,215,400 株
 議決権を有する株主数 6,326 名
 上位10名の株主の状況

株主名	持株数 (株)
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	2,470,000
アクモスグループ社員持株会	339,337
飯島秀幸	318,400
光通信株式会社	277,200
金子登志雄	96,000
外池栄一郎	80,000
富安理之	79,300
新居紀孝	55,500
加藤泰正	55,000
鷲見憲司	55,000

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況

